

石巻専修大学

「石巻専修大学」ホームページ <http://www.senshu-u.ac.jp/shinomaki/>

石巻専修大学
広報係

☎986-8580
宮城県石巻市
南境新水戸1番地
☎0225-22-7717(直)

2018年4月
創立30年を
迎えます

石巻川開き祭り 学生盛り上げる

孫兵衛船競漕／大縄引き／流燈／大漁踊り



掛け声に合わせ懸命に縄を引く学生・教員合同チーム（大縄引き）



持てる力を精いっぱい出し切った（孫兵衛船競漕）

石巻の夏を彩る「石巻川開き祭り」が7月31日と8月1日の2日間、盛大に行われた。本学は2年前から学生が参加しやすいように開催日を「地域貢献日」としており、今回も学生・教職員合わせて175人が参加。木造手漕ぎ船競漕や大縄引きで熱戦を繰り広げ、模擬店の運営にも汗を流した。

祭りは石巻の水運の基礎を築いた江戸時代の川村孫兵衛にちなむ。12人乗りの船で旧北上川の石巻大橋・内海橋間400mを競う「孫兵衛船競漕」には、学生と教職員の合同チームが出場。残念ながら予選突破はならなかったが、川岸からの

声援に最後まで力を振り絞った。河川改修の測量に使った縄を孫兵衛翁が神社に奉納したことに由来する

「大縄引き」には、硬式野球部員や水野純理工学部教授も参加。若い力と見事なチームワークで決勝まで勝ち進み、手に汗を話し合っていた。

夕暮れには、本学の学生や教職員も製作に携わった「流燈」5000個

が旧北上川の川面を照らした。学生たちは流燈を一つずつ手渡しして川に流した。花火が打ち上げられる中、東日本大震災で命を落とした人々の冥福を祈った。

祭り締めくくめるパレード「大漁踊り」では、約50人の学生らがそろいの浴衣で優雅に舞い、練習の成果を披露。毎年新調される浴衣を楽しみにする市民も多く、沿道から大きな拍手が送られた。

祭り気分を盛り上げる模擬店でも学生が大活躍し、学生会がフランクフルト、かき氷を販売した。祭りは大小6000発が夜空を染めた花火大会で閉幕。翌2日の早朝には学生と教職員約40人が花火くずを拾うボランティアに参加し、打ち上げ会場周辺を清掃した。



涼やかな浴衣姿で祭りを彩った（大漁踊り）

米メーコン大生らが来学

東日本大震災の復興状況を研究

昨年度から本学との交流事業が始まった米メーコン大生ら（メーコン大学）が、7月12日から16日までの5日間、調査や研究に取り組んだ。来日したのは、東日本大震災からの復興状況を研究している学生4人（4年次生3人、3年次生1人）と指導教員など職員6人。図書館の「テ

岡野ゼミ生と交流するメーコン大生5名館屋上

「パワープラント工学」「学外見学・実習」を履修する理工学部機械工学科の3年次生25人を対象とした学外見学が8月3、4の両日、実施された。川島純一教授、亀

谷裕敬教授らに引率された学生たちは、石巻市と仙台市で計4カ所の工場などを見学し、それぞれの工場で機械操作や作業工程、安全な職場環境づくりなどについて理解を

3日は石巻市内の2社を訪ね、年間約80万の紙を生産する日本製紙石巻工場、造船や船舶修理などを行うヤマニシの造船所を見学した。翌日は仙台市のキリンビール仙台工場と、東北電力仙台火力発電所を訪ね、同発電所では構内にある太陽光発電所や火力技術訓練センターも回った。

製紙工場、造船所など見学

機械工学科3年次生25人

41人に修了証

開放講座

6月から7回にわたって開講されたみやぎ県民大学「石巻専修大学開放講座」が7月14日に終了した。5回以上受講した41人（うち26人が全講義を受講）に修了証を授

杉田センター長（右）から修了証が手渡された

27日、石巻市役所の庁議室で開かれた。2015年度の助成事業に採択された2件の研究課題について、経営学部の石原慎一、山崎泰央の両教授が1年間の活動内容と研究成果を報告した。石巻地域に根差した研究で、出席者は興味深げに聴講していた。

共創研究センター8件の成果報告

「共に創る」をキーワードに、地域自治体や企業と連携した研究活動に取り組んでいる石巻専修大学共創研究センター（中込真二センター長）の研究発表報告会が7月21日、本学で開かれた。2015年度に実施された8件の研究プロジェクトについて、代表者が概要説明と成果報告を行った。

今回は、「東日本大震災による被災と学生の健康指標等の関係に関する

みやぎ県民大学

石巻専修大学開放講座



杉田センター長（右）から修了証が手渡された

公益財団法人石巻地域高等教育事業団から助成を受け、石巻地域の文化・学術の振興に寄与する研究を行う「IK地域研究」の研究発表会が7月

2教授が報告

▽山崎教授「学習の主体的な学びを促す先進的な取り組みの調査研究」